



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

通年コース第三・四回開催報告

「樹木分類・測量」

『名前が分かれば楽しい散策』

生物が進化し続けているように、生物学も進化しています。なかで分類学は、この学問が生まれた頃の典型的、鑑別的な分類から、進化の過程をたどって分類する系統分類の考え方が取り入れられ、大きく変わりました。さ



下は冷たい雪解けの沢、こわごわ丸木橋を渡る

のよう 三本の 蹄で支 えてい る仲間 を奇蹄 類、ウシ ヤラク ダ(ニ 本)やカ バ、シカ (四本) の仲間 を偶蹄 類と、昔の習 性の高



中園吹鳩公園にて、検索中

ク科の近縁ではないか、というところが最も明らかになりつつあります。分類を植物界、種子植物門、被子植物門、双子葉植物綱、キク科と、上位から覚えていく方にとっては、なんと、なん

たような気がします。でもこの分類は今では通用せず、ウシの仲間はウマよりもクジラに近いことがDNAの解析で分かっています。鯨偶蹄目という目が提唱され、ラクダ、イノシシ、キリン、シカ、カバなど、蹄を持つ哺乳類のほとんどがここに分類されるようになりました。そしてウマの仲間とはというと、サイ、バクとともにウマ目を形成し、蹄を持つ哺乳類のなかではマイナーな存在と成り下がっています。どうやらウマ目はウシよりもネ

植物の分類に関しても、双子葉植物でいえば、離弁花類は合弁花類に比べ進化が遅れていると考えられていました。その離弁花類に属し、ニンジンやパセリなどを含むセリ科植物は、実は合弁花類の中でも最も進化しているといわれる、キ

コやコウモリに近い存在らしい、ということも分かっています。昭和の中ごろまで、畑を耕し、山から材木を引き出して、田舎で大いに活躍したウシとウマは、分類学的には同期の桜ではなく、クジラが海を住処とするもつと以前に袂を分かって以来、平行進化を遂げた結果、同じ農家の畜舎で袖触れ合うようになった仲だったので



情熱あふれる木平さんのお話を聞く

5年前から始めた。現在、長野・山梨両県で宅配契約家庭が700軒に達し、これは薪の量にすると15万束、原木換算では2千立米の間伐材が毎年燃料として有効利用される計算となる。しかも一束250円(45cm)と格安。また、山で働く若い人を心

だか足を掬われたような気になるのかもしれない。でもニンジンはニンジン、キクはキクと、種(しゅ)で覚えてしまえば、DNA解析なんて屁の河童です。日本の樹木の種類数は1500種程度といわれています。草本に比べ数が圧倒的に少ないので、近隣の50種から100種を覚えれば、家族でアウトドアに出かけた折に、「これはトチだよ。こっちはカツラかな」なんて子供たち

8時40分 樹木分類の講義
9時10分 キーを使って樹木のサンプル検索
10時30分 桂木場から上農演習林付近の散策。信州大学演習林檜小屋付近で昼食 ゆっくり戻る
14時30分 山小屋西の島崎先生が手入れをしている広葉樹林で樹木検索
16時30分 金曜サロン (株) DLD バイオエネルギー事業部 木平英一さん
薪ストーブユーザーは広葉樹の薪が欲しいが手に入らない。一方山では針葉樹の間伐材の行き場がなくて山に放置されている。「何かうまくいっていないな...」木平さんはこの思いから、針葉樹の薪を宅配するサービスを

通年コース第三・四回 5月11日(金) 樹木分類



援するために積極的に間伐材を購入。取引価格は持込で立米6千円。森林組合や鳥崎山林塾企業組合など地域の山造り団体も原木を出荷し、一般の方でも相談し条件が合えば取引に応じてくれる。市場に出せないC材の受け皿があることは全国的にも林業家にとって恵まれた環境だといえる。

サイン・コサイン三斜法の午後

「照準を合わせる」という作業

*金曜サロン参加者15名
鳥崎先生、川島さん、百瀬さん、古畑さん、北原さん、浜田(久)さんもご参加。
19時 懇親会

5月12日(土)

測量・製図

8時40分 コンパス測量に関する講義

9時20分 小屋前でコンパスの使い方実習

9時40分 山小屋東側の建石さん山林測量

12時40分 昼食後、眠気をこらえてデータ解析、製図。データが怪しかったので両班とも再測。その結果早川班は作図誤差を除くと1670分の1というすばらしいデータ

ができた。(下記、パソコンでの作図参照) 園田さんの作図でも誤差1mm以下でした。

三斜法による面積計算も、がんばり屋の大澤さんを最後に終了。高校生

のときの記憶もすっかり飛んでしまっていたとのこと。等高線までは入れられなかったが、方法をざつと説明。

16時30分 講評、終了

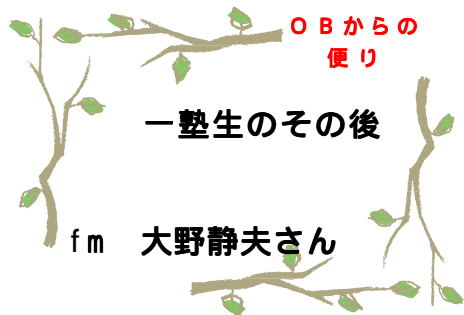
参加者/和泉さん、板山さん、大澤さん、金子さん、小林さん、高橋さん

講師/早川

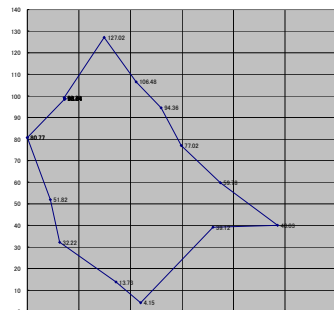
スタッフ/大野、園田、松岡

1995年1月23日、やけに寒い雪のますみヶ丘で仕事

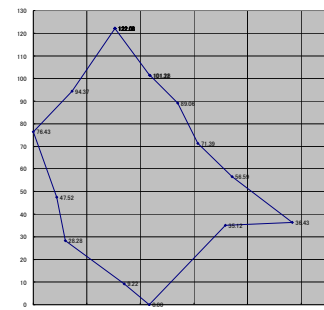
中の鳥崎先生と早川さんに初めてお会いしてから七年がたちました。



fm 大野静夫さん



大野班5, 348 m誤差 1/50



早川班5, 359 m誤差 1/1670

森林塾通信はこれで三回目になりますが、新しい参加者の参考になればと思います。今回は森林塾に参加した「都会人」がその後どうなるのかの一例を紹介します。特別な技能も、並外れた体力も無く、ビル・ゲイツのような資産も無い中年のおっさんが森林塾で学んだ山仕事の技術だけで生きていくことは可能なのか。残念ながらかなり難しいと言わざるを得ません。でも、伊那市の片隅に移住して細々と暮らしていくことはできました。ある時は鳥崎先生にお願いして保証人になってもらい市営住宅に住んだこともありまして(真似しないでください)。今は寒いことで定評のある新山に住んでいます。五月の中旬になってもうストーブを焚いているのが自慢です。普段どんな生活をしているのかと聞かれると困ります。気の利いたことは何もしていないからです。あえて聞かれれば、本を読んで酒を飲む詩人の暮らしです、と答えています。貧乏人の田舎暮らしは何でも自分でするので結構忙しいのです。飼う猫が寒がらないように大量の薪を作るのも大仕事です。途中までしかできて

いない家の「完成」もこの先何年かかるとも知れない夢のある作業です。一方収入はほとんど無いのでだんだんじり貧になります。年金も無いよりましな程度で頼りにならないので、三年前から二人の仲間とNPOを作って地元の山の間伐を始めました。「地域に雇用を作り出す」という大層なふれこみですが、まずは自分たちの仕事を作っています。この二人の仲間も同じ新山に移住してきた森林塾出身者です。ついでなので宣伝しますが、新山は土地も安く住みやすいところ。で移住者を歓迎します(人柄のいい人が条件ですけど)。ちなみに私のいる常会は十戸のうち三戸が移住者です。仕事について言うと、われわれは老人なので二日働いて一日休むのが基本です。森林塾の講師をやっている企業組合の皆さんと比べると生産性は半分くらいです。所得はもちろん比較になりませんが、興味がある方はNPO法人トンボ山までお問い合わせください。

これまで材の搬出という先生のキャタトラを借りたり、KOAのやつを借りたり(壊したり)して、その都度早川さんにはお世話になり申し訳なく思っています。が、今年何とかキャタトラを導入することができ、ささやかながら自力で搬出もできるようになりました。われわれの活動で少し違う点は単に間伐をやるのではなく地元在住という点を生かして山主の境界確認作業をおまけに付けているところです。実を言えばほとんどが小規模山林所有者である新山の山主は自分の山の状態には関心が無いので、補助金制度を使って自己負担無しで間伐をしてくれるもあまり乗り気になりません。しかし財産としては無関心ではいられないので隣地との境界がはっきりしないのはやはり困るわけです。そこで間伐をやる前に、事情の分かる地元長老に立ち会ってもらって境界の確認をし、杭を打ってその位置のGPSデータを付けた地図を作る、というわれわれの提案が受け入れられるわけです。周辺の山林二箇所を団地化(それぞれ30ha以上)し、五カ年計画を立て順次実施しつつこの三月で二年が経過しました。今後対象区域を拡大していけば五年サイクルで仕事が回り常時仕事ができるようになる見込みです。そうならば文字通り地元雇用を創出できるわけですから、中山間地の過疎対策としても期待が持てます。



左からラリー、モー、カーリー

こうしてわれわれのNP
Oは日の出の勢いで成長し、
どんどん人を雇ってばりば
り木を伐り、森林組合と張り
合う存在になるはずでした。
このような明るい未来に影
を落としたのが国の林業政
策の転換です。紙幅が足りな
いので詳細は省きますが、補
助金制度がこれまでの切り
捨て間伐から搬出に重点を
置くものになったのです。
その上広大な面積を取りま
とめて「経営計画」(われわ
れの五カ年計画は反故にな
ります)を新たに作成するこ
とが前提とされ、いまやどの
林業事業者も手が出せない
状態になっています。そうい
う事情でわれわれも今年の
施業見通しは今のところゼ
ロです。

それで
も悪政は
いずれ正
されると
信じて、
震災支援
のログハ
ウスキッ
トづくり
などで当
面を凌ぎ
ながら、
わがNP
Oは日本
の夜明け
を待って
います。

私にとってKOA森林塾
で学んだことは経済的なこ
とは別にしても老後を豊か
にしたことは確かです。
編注：大野さんは1995
年から5年間参加いただき
ました。塾のOB会長です。
写真本名は左からNP O事
務局石原さん、理事長小池さ
ん、副理事長大野さん

次回以降の予定

通年コース 第五・六回

6月1・2日(金・土)

測樹・木工

前回の測量で、森林の広さ
や形状が分かりました。次は
そこに生えている木を調べ
る測樹です。種類、大きさ、数
量などを調査し、間伐の要、
不要を判断します。現場は伊
那市西春近野山アヤマ園。

電卓必要、山小屋集合です。
2日(土)の木工は向山製
材さんで4月に挽いても
らったヒノキ、スギ材で日
用品を製作予定。箕輪町の
KOA本社で行います。伐
木・造材を行った現場の駐
車場に集合ください。

専門コース第1回開催

7月5~7日(木~土)

専門コース最初の開催です。
傾斜の緩やかな山林で
チェーンソーの扱いの基本
から始めてみましょう。

通年コース 第七・八回

7月13・14日(金・土)

島崎先生を講師に、間伐
実践の二日間です。測樹で
調査した現場でおこないま
す。金曜の夕方は暑気払い
で一杯やりますか。雑魚寝
になります。宿泊可です。
金曜サロンは産直市場の
小林会長をお招きして産直
のお話を聞き、そば打ちの
講習も語っていただく予定。

リレー通信

里山に憧れて

高橋 直子



伊那谷に来て5年がたち
ました。
普段は夫婦で農業をして
います。我が家ではアスパラ
が主体なので、春の萌芽がは
じまってから9月頃までは
毎日収穫です。アスパラはも
ともと土手に自生していた
山菜のような植物です。作物
自体の生理生態もおもしろ
いのですが、畑の雑草や虫、
菌類などの微生物にも心惹
かれます。それぞれ工夫を凝
らし子孫を残します。日々発
見、勉強です。何がわかって
ないのかも、わかってないと
ころもあります。季節に追
われながらも試行錯誤を重
ねています。
こんな、仕事もまだまだこ
れからの中、森林塾に参加す
ることは迷いも不安もあり
ました。まして山を持ってい
るわけでもなく、具体的に何
のためにという訳ではあり
ません。ただ、生活の中で里
山とかかわりたいという漠
然とした気持ちがあり、いろ
んなタイミングと重なって
おもいきって参加すること
にしました。今年一年間楽し
みます。

初めての植林でした。あの
コナラは無事に根がついた
のでしょうか？葉を広げて
いるのでしょうか？せひま
た見に行きたいと思えます。
10年、20年、50年たったら
どんな山になっているので
しょうか？想像がつくよう
な…つかないような…。松く
い虫の山もどうなっていく
のでしょうか？
チェーンソーでの伐木、大
きな木ほど伐ってしまうの
は、木に申し訳ないような気
になります。でも、ドサツと
倒れると気持ちが良いもの
がありました。枝一本残ら
ず、使いたい気持ちになりま
す。

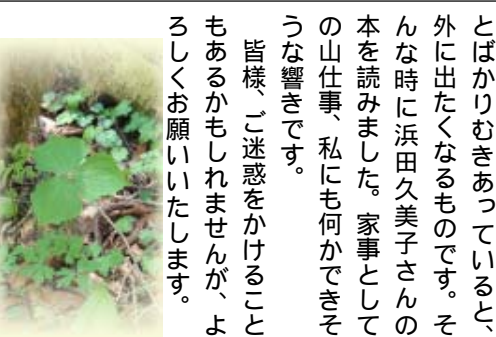
この森は間伐されていて、
木と木の間隔もありました
が、少しでも失敗すればかか
り木になってしまい、難しさ
を感じました。間伐されてな
い、木がぎっしりの森なんて
どうやって伐るのでしょ
うか？自分よりくらべものに
ならないくらい大きい木を
扱うというのは、それだけで
もとても大変なことだと思
います。気軽に誰でもできる
仕事ではないですね。しっか
りとした技術の習得と経験
が大切なのでしょう。
5月の講座では樹木検索、
測量、製図と、まさかこんな
ところでsin・cosに
出逢うとは…。今回の測樹で
も使うとのことなので予習
をしていかなければいけま
せんね。いまいち理解してい
ません。普段使わない部分を
使い、脳がひきしまりまし
た。
そして樹木検索図鑑、こん
な良いものがあつたんです
ね。そのうち時間を見つけて
本を片手に山に行こうと思
います。これだけいろんな種
類があるので、それを見分け
て覚えるには時間がかかり
そうですが、楽しみがふえま
した。山の中というのは外か
ら見ているより気持ちの良
い空間だと思いました。まっ
たく手の入っていない山は、ま
た違うのかも知れませんが
…。それに一人では不安にな
るかも知れません。
毎回初めてのことがばかり
でとても興味深く、連日の仕
事の疲れがふき飛びます。た
くさんのことを学び吸収し
て、より有意義な時間にして
いこうと思います。
さて、少し私のことを書き
ます。
関東平野の真っ只中で
育った私には、山は遠くにあ
るものでした。それでも、木
は身近にありました。小さい
頃過ごした家は、武蔵国一の
宮」といわれる大きな神社が
目の前で、2km続く参道沿い
には大きな木が立ちならん
でいました。その参道が大好

きでした。大きな木のトンネル。ケヤキが多かったと思います。何の木か覚えていませんが、大人でもかかえきれないほどの大きな古木もあり、また神社の周りも広い鎮守の森でした。夏の朝霧につつまれ、カッコウが鳴く中、散歩したのをよく覚えていいます。その後引越してからも常にお気に入りの『木の下』がありまして。見ているだけで気持ち良い木ってありませんよね。

か新鮮でした。里山の生活、なんといいたらいいでしょう。身の回りの環境をうまく利用した、知恵の詰まった生活、原始的な生活というものではなく、現代的な便利さとは違った、便利さというのでしょうか。なんともいえない強さ、豊かさがあるように思います。しかし、農村に暮らす方は働き者ばかりで、怠け者の私は頭が上がりません。こんな怠け者でもそういう生活に憧れます。

山形の大学に行ったことで山に囲まれた環境になり、たびたび山に入ることがありました。登山というのではなく、ぶらぶら散歩に入るといった感じです。広葉樹と針葉樹のまざった、人の生活が感じられるような里山です。地方の方と接する中で、薪や井戸水やきのこや山菜、水車、狩猟にどぶろく、なんだ

改めて考えてみると伊那谷へ来てからの生活が、一番木と交流のない生活のように感じます。



な気がします。周りにはたくさん山があり、木なんていっぱいあるのに、車で横を通りすぎるだけ。毎日目に入るけれど、なんとなく遠いような...

農業をしよつと情報を集めていた時、もちろん林業も担い手不足だとか、山が荒れているとか聞こえてきました。全く『林業』ということを考えなかつたわけじゃないんです。木を相手に山で働くなんておもしろそうです。でも、体力に自信もないし、男の仕事であるというイメージも強く、また発症はしていませんが、また発症はしないので考えるだけに終わりました。

今『農業』をしていて、『林業』にしてあげばよかったということでは、ありません。無我夢中に働いて、畑と主人とばかりむきあつていて、外に出たくなるものです。そんな時に浜田久美子さんの本を読みました。家事としての山仕事、私にも何かできそうな響きです。皆様、ご迷惑をかけることもあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

コラム "島さん"の 言挙げす

No.2 「分収造林の課題」

専門的に森林の維持管理や林業活動にたずさわっていない方々にとっては、戦前からわが国林業施策上重要視されてきた『分収造林』への理解は薄いように思われる。

林(いわゆる官行造林)をはじめ、戦後この官行造林の業務を引き継いだ森林開発公団(現森林総合研究所内の森林農地整備センター)による公団造林、官行造林方式にならった都道府県主導の県行造林や都道府県ごとに設立された林業公社(あるいは造林公社)による公社造林、あるいは国や公社による分収育林事業(育成の途次にある人工林の手入れに参画し、その収益を分収する)は、地域林業の振興ならびに森林資源の培養を旨として、わが国林政の重要な柱のひとつとして位置づけられてきた。

近代化が急速に展開しつつあつた明治後半以降には、地勢などの地理的条件が悪く、かつ豊富な森林資源の開発が十分に行われていない特定地域内の森林を計画的に開発するため、必要な林道の開設と併せて国有林の力を借りて対象民有林(主に市町村有林)の人工林化を図り、契約期間満了時点(伐期50~60年)における収益を国有林と地元市町村とで分収し、もつて林業の発展と森林の有する諸機能の維持増進に資することを目的として「公有林野官行造林法」が広く施行されてきた。

これらの分収事業のうち1980年頃までに契約期限を迎えた官行造林地では順調な材価の高騰にも恵まれて、契約の当事者である国有林、地元市町村双方にとつてほぼ満足な分収額(分収歩合はほとんどが五分五分)が得られ、市町村財政を潤したり収穫跡地への再造林費が賄われたケースも多かった。

の総ては契約以降造・育林費や維持管理費の投入ばかりで中間収入は全く得られておらず、この間に投入された費用の総額は数兆円にも及んでいるが、これらの事態にどのような対応が図られているか詳細はつまびらかでない。得られたわずかな情報によると、伐期(契約期間)の大幅延長(30年ほど)や維持管理費の一部負担などが挙げられている。

おわりに

島崎洋路

大日本沿海輿地全図を残した伊能忠敬は、50歳の時に造り酒屋を長男に譲り隠居高橋至時に師事し、測量・天文観測を習得。56歳から足掛け17年で日本全国を測量しました。井上ひさしが『四千万歩の男』に詳しく、面白く著しています。あやかりたい人生ですね。

投稿大歓迎。ご意見ご質問は早川・松岡(事務局)までお知らせください。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp